

史料紹介

本興寺本『源氏物語』初音巻 翻刻

加藤 希

【凡例】

一、頁数として『鷲津本興寺宝蔵聖經典籍目録』内の目録番号を示した。本文は各頁十行、見開き二十行であり、数字で行数を示した。

一、翻刻本文は、漢字・仮名ともに通用の字体を用いる。

1、仮名遣い、反復記号、送り仮名は底本のままとする。

2、濁点や句読点は付さない。ただし、本文に濁点がある場合はその通り表記する。

3、改行や字下げなどは、可能な限り原本に合わせる。

一、【校異】は、『源氏物語大成 第三冊 校異篇』（中央公論社、一九八四年 略称〈大成〉）に拠り、表記の相違は示さず、語の異なりのみを示す。校異は本文の行数を以てあらわし、下に異文を記した。補入やミセケチは括弧内に記した。異同箇所を示した諸本の略称は、以下の通りである。

・青表紙本系統〈青〉

〈大成〉池田本 伝二条為明筆

慈 横山本 伝慈鎮筆

横 横山本

肖 肖柏本

三 三条西家本

桃園文庫蔵※

静嘉堂文庫蔵

横山敬次郎氏蔵

桃園文庫蔵

三条西伯爵家蔵

・河内本系統〈河〉

御 御物本

大 大島本

飯 高松宮家本

宮 隆旬筆

尾 尾州家本 伝清水谷実秋筆

鳳 鳳来寺本

・別本〈別〉

大 大島本 飛鳥井雅康筆

保 保坂本

麦 麦生本 麦生鑑綱筆

阿 阿里莫本

※〈大成〉のみ諸本の系統とは別に先に記した。

一、異文記号、補入、ミセケチ、書入、ルビなどがある場合は【注記】に記した。

一、特殊な本文については【補】に記した。

東山御文庫御蔵

大島雅太郎氏蔵

飯島春敬氏蔵

高松宮家御蔵

徳川侯爵家蔵

鳳来寺蔵

大島雅太郎氏蔵

保坂潤治氏蔵

桃園文庫蔵

桃園文庫蔵

●No.193

- 1 年立かへるあしたの空のけしきなこりなく
- 2 くもらぬうらゝけさにはかすならぬかきねのうら
- 3 たに雪まの草わかやかに色つきはしめいつしかと
- 4 けしきたつかすみにこのめもうちけふりをのつ
- 5 から人のこゝろものひらかにそみゆるかしまして
- 6 いとゝ玉をしけるおまへは庭よりはしめみ所
- 7 おほくみかきまし給へる御かた／＼のありさま
- 8 まねひたてんもことのはたるましく南春の
- 9 おとゝのおまへとりわきて梅のかもみすのうちの
- 10 にほひにふきまかひていける仏のみ国とおほ

【校異】七六三頁

- ④かすみに―〈大成〉かすみの 〈青〉かすみに慈横肖三〈河〉かすみに河〈別〉かすみに別

【補】

⑧「なむ(なん)」を「南」と表記している。以下の本文においても同文字の使用が見られる。

●No.194

- 1 ゆさすかにうちとけてやすらかにすみなし給へり
- 2 さふらふ人ゝもわかやかにすくれたるをひめ君

3 の御方にとえらせ給てすこしをとなひたるかき
りなか／＼よし／＼しくさうそくありさまよりは

- 4 しめてめやすくもてつけてかしこにむれぬ
- 5 つゝはかためのはひしてもちいかゝみをさへとり
- 6 よせてちとせのかけにけるき年の内のいは
- 7 ひことゝもしてそほれあへるいおとゝの君さしの
- 8 そき給へればふところて引なほしつゝいと
- 9 はしたなきわかかなとわひあへりいとしたりか
- 10 なる身つからのいはひことゝもかなみなをの／＼
- 11 おもふ事のみち／＼あらんかしすこしきかせよや
- 12 われことふきせむとうちわらひ給へる御ありさま
- 13 を年の始のさかへにみたてまつる我はと思あ
- 14 かれる中将の君そかねてそみゆるなとこそかゝ
- 15 みのかけにもかたらひ侍れわたくしのいのりは
- 16 なにはかりの事をかなときこゆあしたの程つは
- 17 人ゝまいりこみて物さはかりけるを夕つかた
- 18 御方／＼のさんさし給はんとて心ことに引つく
- 19 ろひけさうし給御かけこそけにみるかいあ
- 20

【校異】

⑩侍れ―〈大成〉侍りつれ 〈青〉侍へれ肖 〈別〉侍れ別

●No.195

- 1 めれけさこの人ゝのたはふれかはしつるうら

- 2 やましうみえつるをうへにはわれみせ奉らんとて
3 みたれたる事ともすこしうちませつゝいはひ
4 きこえ給ふ
5 うすこほりとけぬる池のかゝみには世にたく
6 いなきかけそならへるけにめてたき御あはひ
7 ともなり
8 くもりなき池のかゝみに万代をすむへきか
9 けそしるくみえける何事につけても末とをき
10 御契をあらまほしくきこえかはし給ふ今日は
11 子日なりけりけにちとせの春をかけていはゝむ
12 にことほりなる日也姫君の御かたにわたり給へれば
13 わらはしもつかへなとおまへの山のご松ひきあそ
14 ふわかき人ゝの心ちともをき所なくみゆ北の
15 おとゝよりわさとかましくしあつめたるひけこ
16 ともありこなとたてまつれ給へりえならぬ五
17 えうの枝にうつれるうくひすも思ふ心あらむかし
18 年月をまつにひかれてふる人にけふ驚の
19 初音きかせよ音せぬ里のときこえ給へるを
20 けに哀とおほししることいみもし給はぬ気色也
- 【校異】
① けさこの―〈大成〉けさの 〈青〉けさこの慈肖三 〈河〉け
さこの河 〈別〉けさこの大保麦―けさ阿
① 「かはしつる」の下ナシ―〈大成〉いと 〈別〉ナシ麦阿
① うらやましう―〈大成〉うらやましく 〈青〉うらやましう横
肖三

- ③ 事とも―〈大成〉こと 〈青〉事とも慈肖三 〈河〉ことゝも
河宮尾鳳 〈別〉事とも大保―事も麦阿
①7 うつれる―〈大成〉うつる 〈青〉うつれる肖
②0 し給はぬ―〈大成〉えし給はぬ
- 【注記】
①7 うつれる 《異文記号》「れ」の右横に「イ」（「うつる」）
- No.196
- 1 この御かへりは身つからきこえ給へはつねおしみ給
2 へきかたにもあらずかして御すゝりとりまか
3 なひかゝせ奉らせ給いとうつくしけにてあけ暮
4 みたてまつる人たにあかす思ひきこゆる御有さま
5 を今までおほつかなきとし月のへたゝりけるも
6 つみえかましく心くるしとおほす
7 引わかれ年はふれともうくひすのすたちし
8 松のねを忘れやおさなき御心にまかせてくた／＼
9 しくそある夏の御すまひを見給へは時ならぬ
10 けにやいとしつかにみえてわさとこのましき事
11 もなくあてやかにすみなし給へるけはひみえわたる
12 年月にそへて御心のへたてもなく哀なる御な
13 からひ也今はあなちにかやかかなる御ありさまも
14 もてなしきこえ給はさりけりいとむつましくあり
15 かたからむいもせの契はかりきこえかはし給ふみ木

16 丁へたてたれとすこしをしやり給へはまたさてお
 17 はすはなたはけにゝほひおほからぬあはひにて御
 18 くしなともいたくさかり過にけりやさしきかたに
 19 あらねとえひかつらしてそつくろい給ふへき我なら
 20 さらん人はみさめしぬへき御ありさまをかくてみるこそ

【校異】

⑥ つみえかましくー〈大成〉 つみへかましく 〈青〉 つみえかま
 しく慈横肖三

●No.197

1 うれしくほいあれ心のかろき人のつらにて我にそむ
 2 き給なましかはなと御たいめむのおり／＼にはまつ
 3 我御心のなかさも人の御心のをもきをもうれしく
 4 思ふやう也とおほしけりこまやかにふる年の御
 5 物かたりなとなつかしくきこえ給ひてにしのたい
 6 へわたり給ふまたいたくもすみなれ給はぬほと
 7 よりはけはひをかしくしなしてをかしけなるわら
 8 はへのすかたなまめかしく人かけあまたして御しつ
 9 らひあるへきかきりなれともこまやかなる御てう
 10 とはいとしもとゝのへ給はぬをさるかたに物きよけ
 11 にすみなし給へりさうし見もあなをかしけとふと
 12 みえてやまふきにもてはやし給へる御かたちなといと
 13 花やかにこゝそくもれるとみゆる所なくくまなく

14 匂いきら／＼しくみまほしきさまそし給へる物思
 15 にしつみ給へるほとしのしわさにやかみのすそす
 16 こしほそりてきはらかにかゝれるしもいと物きよけ
 17 にこゝかしこいとけさやかなるさまし給へるをかく
 18 てみさらましかはとおもほすにつけてもえしも
 19 みすくし給ふましくやかきいとへたてなくみた
 20 てまつりなれ給へとなをおもふにへたゝりおほく

【校異】

③ 御心のなかさもー〈大成〉御こゝろのなかさをも 〈青〉御心
 なかさも慈ー御心のなかさ横ー御心のなかさも肖三 〈河〉心の
 なかさも宮ー御こころのなかさも尾 〈別〉御心のなかさも保表
 阿

⑤ なつかしくー〈大成〉なつかしう 〈青〉なつかしく慈肖三
 ⑧ つけてもー〈大成〉つけては 〈青〉つけても横肖 〈別〉つ
 けても大
 ⑨ 給ふましくやかくー〈大成〉給ましくやかて 〈青〉給ましく
 やかくて慈ーたまふましくやかく肖 〈河〉給ましくやかく宮
 ⑩ みたてまつりなれー〈大成〉みたてまつり 〈青〉みたてまつ
 りなれ慈肖 〈河〉みたてまつりなれ河宮尾鳳

●No.198

1 あやしきかうつゝの心ちもし給はねはまほならず
 2 もてなし給へるもいとをかし年ころに成ぬる心

- 3 ちしてみたてまつるも心やすくほいかなひぬる
 4 をつ。みなくもてなし給てあなたなどにもわ
 5 たり給へかしいはけなきうひことならふ人も
 6 あめるをもる共に聞ならし給へうしろめたく
 7 あはつけき心もたる人なき所也ときこえ給へは
 8 の給はんまゝにこそはときこえ給ふさもあること
 9 そかし暮かたになる程にあかしの御かたにわた
 10 り給ふちかきわたとのゝ戸をしあくるよりみす
 11 のうちのをい風なまめかしく吹にほは。してもの
 12 よりことにけたかくおほさるさうしみはみえず
 13 いつらとみまはし給ふにすゝりのあたりにきはゝ
 14 しくさうしともとりちらしけるをとりつゝ見
 15 給ふからのとうきやうきのこと／＼しきはさし
 16 たるしとねにをかしけなるきむうちをきわさと
 17 めきよしある火をけにしゝうをくゆらかして
 18 物ことにしめたるえいかうのかのまかへるいとえん
 19 なりてならひとみたれうちとけたるもす
 20 ちかはりゆへあるかきさま也こと／＼しくさうかち

【校異】

- ⑧の給はん―〈大成〉のたまはせん 〈青〉のたまはむ肖
 ⑩吹にほは。して―〈大成〉ふきにほはかして 〈青〉ふきにほ
 はして(「して」がミセケチで「かして」)池―ふきにははして横
 肖 〈河〉ふきにははして御 〈別〉ふきにははして別
 ⑭とりちらしけるを―〈大成〉とりちらしたるを 〈青〉とりち
 らしけるを肖 〈河〉とりちらしけるを宮尾鳳

- ⑮からのとうきやうき―〈大成〉からのき 〈青〉からのとうき
 やうき肖 〈河〉からのとうきやう御―からのとうきやうき大飯
 宮尾 〈別〉からのとうきやうき別
 ⑳こと／＼しく―〈大成〉こと／＼しう 〈青〉こと／＼しく慈
 肖 〈河〉こと／＼しけに宮尾鳳

【注記】

- ④つ。み 《補入》「。」の左横に「ツ」(「つつみ」)
 ⑩ふきにはは。して 《補入》「。」の左横に「か」(「ふきには
 はかして」)
 ⑮からのとうきやうき 《異文記号》「とう」の右横に「イ」

●No.199

- 1 などにもされからすめやすくかきすましたり
 2 こまつ。御かへりをめつらしとみけるまゝに哀
 3 なるふることゝもかきませて
 4 めつらしや花のねくらに木つたひて谷の
 5 ふるすをとへるうくひすこゑまち出たるなども
 6 ありさけるをかへに家しあれはなと引返しなく
 7 さめたるすちなとかきませつゝあるをとりて
 8 み給つゝほゝゑみ給へるはつかしけなりふてさ
 9 しぬらしてかきすさひ給ふほとにゑさり出て
 10 さすかに身つからのもてなしはかしこまりをきて
 11 めやすきよいなるをなを人よりはこと成とおほ

- 12 すしろきにけさやかなるかみのかゝりのすこし
 13 さはらかなるほとにうすらきにけるもいとゝなまめ
 14 かしさそひてなつかしければあたらしき年の
 15 御さはかれもやとつゝましけれとこなたにとまり
 16 給ぬなをおほえこと成かしたかた／＼にこゝろをきて
 17 おほすみなみのおとゝにはましてめさましかる人ゝ
 18 ありまた明ほのゝ程にわたり給ぬかくしもある
 19 ましき夜ふかきそかしと思ふになりもたゝな
 20 らすあはれにおもふまちとり給へるはたなま

【校異】

- ①されからすー〈大成〉さへかかす 〈青〉さえかか(ら)す横―
 されかゝす肖―さえからす三 〈河〉さすかゝかす御―さかしか
 らす大―さえかかす飯―さえからす宮鳳 〈別〉かへからす保麦
 ②御かへりー〈大成〉御返 〈青〉御かへり肖 〈河〉御かへし
 御―御かへり大 〈別〉御かへり大―御返し麦阿
 ⑤とへるー〈大成〉とつる 〈青〉とつる(ミ)セケチで「とへる」
 慈―とへる横肖三
 ⑨かきすさひー〈大成〉かきすさみ 〈青〉かきすさひ慈
 ⑱夜ふかきー〈大成〉夜ふかき 〈青〉夜ふかき

●No.200

- 1 けやけしとおほすへかめる心のうしはかられ給て
 2 あやしきうたゝねをしてわか／＼しかりけるいきた

- 3 なさをさしもおとろかし給はてとみけしき
 4 とり給ふもをかしうみゆことなる御いらへもなけれ
 5 はわつらはしくてそらねをしつゝひたかくおほと
 6 こもりおきたりけふはりんしきやくのことにまき
 7 らはしてそおもかくし給ふかんたちめのみこたちな
 8 とれいのゝこるなくまいり給へり御あそひありて
 9 ひき出ものろくなになしそこらつとひ給へるか
 10 なかにもすこしなすらいなるたにみえ給はぬ
 11 物かなとりはなちてはいうそくおほく物し給
 12 ころなれとおまへにてはけをされ給ふわろし
 13 かし何のかすならぬしもへともなとたに此院に
 14 まいるには心つかひこと也けりましてわかやかなる
 15 かんたちめなどは思ふ心などもみし給てすゝろに
 16 心けさうし給ふつゝ常の年よりもこと也花
 17 のかさそふ夕風のとかにうち吹たるにおまへの
 18 むめやう／＼ひもときてあれはたれときなるに
 19 物のしらへともおもしろくこのとのうち出たる
 20 ひやうしいと花やか也おとゝもとき／＼こゑうち

【校異】

- ①はかられ給てー〈大成〉はゝかられ給て 〈青〉はかられ給て
 (「給」は補入)横―はかられ給ひて肖三 〈別〉はかられ給て大
 ーおしはかられ給て麦阿
 ④をかしうー〈大成〉をかしく 〈青〉をかしう慈横肖三
 ⑨給へるかー〈大成〉給へるか我もおとらしともてなし給へる
 〈青〉(「給へるかゝもてなし」まで)ナシ肖

⑩ なかにも―〈大成〉中にも 〈青〉なかにも慈肖
⑪ あれはたれとき―〈大成〉あはれなるたそかれとき 〈青〉あ
れはたれとき慈横肖三 〈河〉あはれはたそかれとき御―あはた
そとき大―あはれはたれとき飯宮尾鳳 〈別〉あはれはたれ時大保―
哀なる時麦阿
⑫ うち出たる―〈大成〉うたひたる 〈青〉うちいてたる慈肖三
―うちいらへたる横 〈河〉うちいてたる河宮―うちいて尾
〈別〉うち出たる別

●No.201

1 そへ給へるさきくさの末つかたいとなつかしくめ
2 てたくきこゆ何こともさしいらへし給ふ御ひかり
3 にはやされて色をもねをもますけちめこと
4 になんわかれけるかくのゝしるむまくるまの音
5 をも物へたてゝ聞給ふ御かた／＼ははちすの中
6 のせかいにまたひらけさらん心ちもかくやと心や
7 ましけ也ましてひむかしの院にはなれ給へる御
8 かた／＼は年月にそへてつれ／＼のかすのみまさ
9 れと世のうきめみえぬ山ちに思なすらへてつれ
10 なき人の御心をは何とかはみたてまつりとかめむ
11 そのほの心もとなくさひしき事はたなければ
12 おこなひの方の人はそのまきれなくつとめかな
13 のよろつのさうしのかくもむ心にいれ給はん人
14 はまたそのねかひにしたかひ物まめやかに

15 はか／＼しきをきてにもたゝ心のねかひに順たる
16 すまひ也さはかしき日ころすくしてわたり給へり
17 ひたちの宮の御方は人のほどあはれは心くるしく
18 おほして人めのかさりはかりはいとよくそもてなし
19 きこえ給ふいにしへさかりとみえし御わかゝみも
20 年ころにおとろへ行ましてたきのとみ

【校異】

① なつかしく―〈大成〉なつかしう 〈青〉なつかしく慈
② さしいらへし給ふ―〈大成〉さしいてし給 〈青〉さしいらへ
給慈―さしいらへし給横肖三 〈河〉さしいらへ給河宮尾鳳
〈別〉さしいらへ給別

④ 音をも―〈大成〉をとも 〈青〉をとをも慈横肖三 〈河〉を
となども御―をとをも大飯宮―をとを尾 〈別〉をとを別
⑭ したかひ―〈大成〉したかひたる 〈青〉したかひて(ミセケチ
で「て」が「たる」)池―したかひにたる肖
⑱ いとよくそ―〈大成〉いとよく 〈青〉いとよくそ肖

【注記】

⑥ 心ち 《異文記号》「心」の右横に「イ」

【補】

⑪ 「そのほの」とあるが、諸本は「そのほかの」であり、これは
本興寺本の誤脱と考えられる。

●No.202

1 はつかしけ成御かたはらめなとをいとをしとおほせ
 2 はまほにもむかひ給はずやなきはけにこそす
 3 さましかりけれとみゆるもきなし給へる人からなる
 4 へしひかりなくくろきかいねりのさひ／＼し
 5 くはりたるひとかさねさるをり物のうちきを
 6 き給へるいとさむけに心くるしかさねのうちきを
 7 とはいかにしなした。にかあらん御はなの色はかり
 8 かすみにもまさるましく花やかなる御心にも
 9 あらすうちなけれ給てこと更に御き丁引つく
 10 ろいへたて給ふ中／＼女はさしもおほしたらす
 11 今はおほく哀になかき御心のほどもおたしき物に
 12 うちとけたのみきこえ給へる御さま哀也かゝる
 13 かたにもをしなへての人ならすいとをしくかな
 14 しき人の御さまとおほせはあはれに我たにこそ
 15 はと御心とゞめ給へるもありかたきそかし御こゑ
 16 などともいとさむけにうちわなゝきつゝかたらひ
 17 きこえ給ふみわらい給て御そものことうしろみき
 18 こゆる人は侍るやかく心やすき御すまゐはたゞい
 19 とうちとけたるさまにふくみなへたるこそよけれ
 20 うはへはかりつくろひたる御よそひはあいなくなん

【校異】

⑥いとさむけに―大成〕さむけに 〈青〕いとさむけに〔いと
 は補入〕横―いとさむけに肖三 〈河〕いとさむけに河宮尾鳳

〔別〕いとさむけに大保―いとさむけにて表阿

- ⑥心くるし―大成〕心くるしか 〈青〕心くるし慈横肖三 〈河〕
 心くるし河宮尾鳳 〈別〕心くるし別
- ⑪ほとも―大成〕程も 〈青〕ほとも肖
- ⑮御こゑなとも―大成〕御こゑも 〈青〕御こゑなとも慈肖三
 ―御こゑなとも〔なと〕は補入〕横 〈河〕御こゑなとも河宮尾
 鳳 〈別〕御こゑなとも別
- ⑰みわらい給て―大成〕みわつらひ給て 〈青〕みわつらひて
 慈 〈河〕みわらひ給て御
- ⑰御そものこと―大成〕御そものなと 〈青〕御そものこ
 となと肖―御そなと三 〈河〕御そもの事なと河 〈別〕みそ
 ひてなと表―みそひつなと阿
- ⑱侍る―大成〕侍り
- ⑳あいなくなんと―大成〕あいなくなんと 〈青〕あいなくなんむ
 と横肖三 〈河〕あいなくなんなど大―あいなくなんと尾鳳
 〈別〕あいなくなんむと大

【注記】

⑦しなした。にか 《補入》「。」の右横に「る」〔しなしたる〕

●No.203

1 ときこえ給へはこち／＼しくさすかにわらい給て
 2 だいこのあさりの君の御あつかいし侍りとて
 3 きぬともゝえぬい侍らて南かはきぬをさへとられ

4 にしのちさむく侍るときこえ給ふはいとはなあ
5 かき御せうと成けり心うつくしといひなからあまり
6 うちとけすきたりとおほせとこゝにてはいとま
7 めにきすくの人にておはすかはきぬはいとよし山
8 ふしのみのしろ衣にゆつり給ひてあへなんさてこ
9 のいたはりなきしろたへの衣はなゝへにもなとか
10 かさね給はさらむさるへきおり／＼はうち忘れたらん
11 こともおとろかし給へかしもとよりおれ／＼しくた
12 ゆき心のおこたりにましてかた／＼のまきはし
13 きゝほいにもをのつから南との給ひてむかひの院
14 のみくらあけさせてきぬあやなと奉らせ給ふあ
15 れたる所もなけれとすみ給はぬ所のけはひそ
16 しつかにておまへの木たちはかりそいとおもしろく
17 こうはいのさき出たるにほいなとみはやす人も
18 なきをみわたし給て
19 ふる里の香の木すゑに尋きてよのつねな
20 らぬ花をみるかなとひとりこち給へと聞しり

【校異】

②し侍り―〈大成〉し侍る 〈青〉し侍慈三―し侍り横 〈河〉
し侍り宮尾鳳 〈別〉し侍り大
⑩給はさらむ―〈大成〉たまはぬ 〈青〉給はさらん慈横肖三
〈河〉給はさらん河―たまはさらん宮尾 給はさらむ別

【補】

②「だいご」本文中で唯一濁点が付されている箇所である。

●No.204

1 給はさりけんかしうつせみのあまころもにもさし
2 のそき給へりうけはりたるさまにはあらずかこやか
3 につほねすみにしなして仏はかりに所えさせ奉
4 りておこないつとめけるさま哀にみえてきやう
5 仏のかさはかなくしたるあかのくなどもをかし
6 けになまめかしく猶心はせありとみゆる人の
7 けはひ也あをにひの木丁心はへをかしきにいたく
8 ゐかくして袖くちはかりそ色ことなるしもなつ
9 かしけ。れは涙くみ給ひて松かうら嶋をはるかに
10 思てそやみぬへかりけるむかしより心うかりける
11 御契かなさすかにかはりのむつひはたゆましかり
12 けるよなどの給ふあま君も物の哀なるけはひ
13 にてかゝるかたにたにたのみきこえさするしも南あさくは
14 あらす思給へしられ侍るときこゆつねにおり／＼
15 かさねて心まとはし給し世のむくひなどを仏に
16 かしこまりきこゆるこそくるしけれおほししるや
17 かくいとすなをにしもあらぬ物と思あはせ給ふ
18 こともあらしやはとなむ思ふとの給ふかの浅まし
19 かりし世のふることを聞き給へるなめりとはつ
20 かしくかゝるありさまを御らむしはてらるゝより別

【校異】

①うつせみのあまころも―〈大成〉うつせみのあま君にも 〈青〉
うつせみのあまころもにも「ころ」がミセケチで「君に」池―

うつせみのあまころもにも慈横肖三 〈河〉うつせみのあまころもにも河宮尾鳳 〈別〉うつせみのあま衣にも大保―うつせみのあま衣君にも麦―うつせみの君にも阿

②さまには―〈大成〉さまにも 〈青〉さまには慈横肖三 〈河〉さまには河 〈別〉さまには別

⑧みかくして―〈大成〉みかくれて 〈河〉みかくして肖 〈河〉みかくして宮

⑭つねに―〈大成〉つらき 〈青〉つねは〔は〕は補入慈―つねに横三 〈河〉つねに宮尾鳳

⑰なめり―〈大成〉なんめり 〈青〉なめり慈横肖三

【注記】

⑧なつかしけ。れは 《補入》「。」の右横に「な」（「なつかしけなれは」） 〈大成〉は「なつかしければ」であり、諸本も同様である。

●No.205

- 1 のむくひはいつこにか侍らんとてま事に。いにしへより
- 2 も物ふかくはつかしけまさりてかくもてはなれたる
- 3 ことゝおほすしもみはなちか。くおほさるれとはかなきことをの給ひかくへくもあらずおほかたのむ
- 4 かし今の物語をし給てかはかりのいふかひたに
- 5 あれかすとあなたをみやり給ふかやうにても御かけ
- 6 にかくれたる人ゝおほかりみなさしのそきわたし給
- 7

- 8 ておほつかなき日かすつもるおり／＼あれと心の
- 9 うちはおこたらす南たゝ限あるみちのわかれのみ
- 10 こそうしろめたけれいのちはしらぬなとなつか
- 11 しくの給ふいづれをもほと／＼につけて哀とおほし
- 12 たり我はとおほしあかりぬへき御身のほとなれと
- 13 さしもこと／＼しくもてなし給はず所につけ人
- 14 の程につけつゝあまねくなつかしくおはしませは
- 15 たゝかはかりの御心にかゝりて南おほくの人ゝ年
- 16 月をへけることしはおとこたうかあり内より朱
- 17 雀院にまいりてつきにこの院にまいるみちの程
- 18 とをくて夜明かたに成にけり月のくもりなく
- 19 すみまさりてうす雲すこしふれる庭のえなら
- 20 ぬに殿上人なども物の上手おほかるころをいにて

【校異】

- ②はつかしけ―〈大成〉はつかしけさ 〈青〉はつかしけ肖 〈別〉なつかしけさ保
- ⑬御心―〈大成〉御ころろ 〈青〉御心〔心〕は補入肖
- ⑮年月―〈大成〉とし 〈青〉とし月肖 〈河〉とし月宮尾
- ⑰この院に―〈大成〉この院へ 〈青〉この院に慈横肖三 〈河〉この院に河宮尾鳳 〈別〉この院に別
- ⑱月の―〈大成〉月も 〈青〉月の慈横肖三 〈河〉月河―月の宮尾鳳 〈別〉月別
- ⑳なども―〈大成〉など 〈青〉なども肖三 〈河〉なども河宮鳳 〈別〉なども大

- 【注記】
- ① ますに。 《補入》右横に「打なきぬ」（「ますに打なきぬ」）
③ ちか。く 《補入》「。」の右横に「た」（「ちかたく」）
⑩ いのちはしらぬ 《ミセケチ》「は」にミセケチ、右横に「そ」（「いのちそしらぬ」）

● No.206

- 1 笛のねもいとおもしろく吹たてゝこのおまへは
2 ことに心つかいしたり御かた／＼もみにわたり給ふ
3 へくかねて御せうそこともありければ左右の
4 たいわた殿などに御つかはしつゝおはすにしの
5 たいの姫君はしん殿の南の御方にわたり給
6 てこなたのひめ君御たいめむむけりうへも一
7 ところにおはしませはみ木丁はかりへたてゝきこえ
8 給ふ朱雀院きさいの宮の御かたなとめぐりける
9 程によもやう／＼明ゆけ。はみつむまやにて事そ
10 かせ給ふへきをれいあることより別にさまことに
11 ことくはへていみしくもてはやさせ給ふかけすさま
12 しき暁月夜に雪はやう／＼ふりつむ松風こた
13 かく吹おろし物すさましくもありぬへき程に青
14 色のなへはめるにしらかさねの色あひなにの
15 かさりかはみゆるかさしのわたしほひもなき物
16 なれと所からにやおもしろく心ゆきいのちのふる
17 程也とのゝ中將の君内の大とのゝ君たちそ

- 18 こらにすくれてめやすく花やかなりほの／＼と
19 明行に雪やゝ散てそゝろさむきにたけ川
20 うたひてかよれるすかたなつかしきこゑ／＼の

【校異】

- ① おまへは―〈大成〉御前へは 〈青〉御まへは慈横肖三 〈河〉
おまへは河宮尾鳳 〈別〉御まへは大保―御前は麦阿
② 御かた／＼もみに―〈大成〉御方／＼も物みに 〈青〉御方
／＼もみに慈三―御方／＼みに横―御方／＼ものみに（「の」は
補入）肖 〈河〉御方／＼もみに河宮尾鳳 〈別〉御方／＼物みに
別
③ 御せうそこ―〈大成〉御せうそく 〈青〉御せうそこ慈横肖三
④ 朱雀院―〈大成〉朱雀院の 〈青〉すさく院の慈―しゆしやく
院の横―朱雀院肖
⑩ ことより別に―〈大成〉ことよりも 〈青〉ことよりほかに慈
横肖三 〈河〉ことよりほかに河―事よりほかに宮尾鳳 〈別〉
事より外に別
⑩ 内の大との―〈大成〉内の大いとの 〈青〉内の大いとの（「い」
は補入）池慈―内の大殿肖三 〈河〉内の大との尾鳳 〈別〉内の
大殿大―内大臣との保―御大る殿阿

【注記】

- ⑨ 明ゆけ。は 《補入》「。」の右横に「ゆけ」（本文の「ゆけ」
と字母が異なる。本文は「由希」、書入は「由計」）
⑩ 中將 《書入》右横に「夕霧」

●No.207

1 多にもかきとゝめかたからんこそ口をしけれ御
 2 かた／＼いつれも／＼おとらぬ袖口ともこほれいて
 3 たるこちたさ物の色あひなとも明ほのゝ空に
 4 春のにしきたち出にけるかすみのうちかと思
 5 わたさるあやしく心ゆくみ物にそありけるさるは
 6 みうこしのよはなれたるさまことふきのみたり
 7 かはしきおこめきたること／＼しくとりなし
 8 たる中／＼なにはかりのおもしろかるへきひやうしも
 9 きこえぬ物をれいのわたかつきわたりてまかて
 10 ぬ物を夜あけはてぬれは御かた／＼かへり給ぬ
 11 おとゝの君すこしおほとのもりて日たかくおき
 12 給へり中将のこゑは弁の少将におさ／＼おとら
 13 さめるはあやしくいふそくともおい出るころおいに
 14 こそあれいにしへの人はまことにかしこきかたや
 15 すくれたることもおほかりけん情たちたるすちは
 16 このころの人にえしもまさらさりけんかし中将
 17 などおはすく／＼しきおほやけ人にしなしてんと
 18 南おもひをきてかし身つからのあされはみたる
 19 かたくなしさをもてはなれよと思しかと猶下には
 20 ほのすきたる。心をこそとゝむへかめれもてしつめ

【校異】

④たち出にける―大成―たちいてたる 青―たちいてにける
 慈横肖三 河―たちみてかける御―たちいてにける大飯 別

たちいてにける別

⑥み(か)うこし―大成―かうこんし 青―かうこし慈横肖三
 ⑩御かた／＼かへり給ぬ河―御かた／＼かへりたまふ御―御
 かた／＼えかへり給はず大飯 別―御方／＼えかへり給はず大
 保

⑩かへり給ぬ―大成―かへりわたり給ぬ 青―かへりわたり
 給はず慈

⑬弁の少将に―大成―弁少将のに 青―弁の少将に慈横肖三
 河―弁少将に河 別―弁少将に別

【注記】

⑥みうこし 《訂正》「み」の右横に「か」（「かうこし」）

⑧おもひをきてかし 《異文記号》「きてか」の右横に「けしイ」
 （「おもひをきてし」）

⑳心 《補入》「。」の右横に「すじ」（「すじ心」）

【補】

⑨⑩まかてぬ物を夜あけはてぬれは御かた／＼かへり給ぬ

工藤重炬「源氏物語初音巻の本文―本文分類の手法そして大島
 本―」（『中古文学』104、二〇一九年十一月）にて、「御かた／＼
 かへり給ぬ」には三箇所異なることが指摘されている。

（ア）かへりわたり給ぬ（池愛横日平陽国肖穂）

（イ）にかへりわたり給ひぬ（書）

（ウ）へかへり給ひぬ（東）

（エ）へかへり給ひぬ（御）

（オ）えかへり給はず（大玉保飯）

(カ)・かへりわたり給はず (米前伏慈尾高鳳)

大島本、「え」「はず」を見消、「わたり」「ひぬ」を補入して(ア)の形に改変。東大本も「へ」を見消、「わたり」を補入、

「給ひぬ」はナゾリ(『集成続』)なので、元は「へ(え)かへり給はず」であったかと推定される。

「へ(え)・に」の有無、「わたり」の有無、そして文末が「給ひぬ」「給はず」のどちらであるかに分けられている。本興寺本の本文は「・かへり給ぬ」であり、どの諸本とも一致しない。また、本興寺本に「まかてぬ物を」とあるが、「物を」とする諸本は見当たらない。よって、「まかてぬ物を夜あけはてぬれは御かた／＼かへり給ぬ」は本興寺本のみに見られる独自本文ではないかと考えられる。

●No.208

- 1 すぐよかなるうはへはかりはうるさかめりなといと
- 2 うつくしとおほしたりはんすらく御口すさひにの
- 3 給て人ゝこなたにつとい給へるつゝみてにかて物
- 4 の音心みてしかなわたくしのこゑんあるへしとの
- 5 給て御ことゝものこるはしきふくろともして姫
- 6 をかせ給へるみな引出ゝをしのこひてゆるへるを
- 7 とゝのへさせ給なとす御方／＼心つかひいたくし
- 8 つゝ心けさうをつくし給ふらむかし

【校異】

- ①うるさかめり―〈大成〉うるさかめり 〈青〉うるさかめり
慈肖三
- ②はんすらく―〈大成〉万春楽 〈青〉はんすんらく慈―はんす
らく横肖三
- ③御口すさひ―〈大成〉御くちすさみ 〈青〉御くちすさひ肖三
- ④人ゝ―〈大成〉人／＼の 〈河〉人／＼尾 〈別〉人／＼保
- ⑤あるへし―〈大成〉すへし 〈青〉あるへし慈肖 〈河〉ある
へし河宮尾鳳

【注記】

- ②はんすらく 《書入》右横に「万春楽」
- ④あるへし 《異文記号》「ある」の右横に「イ」、左横に「す」
(異文「すへし」)
- ⑤こるはしき 《訂正》「こ」の右横に「う」(「うるはしき」)
- ⑤姫 《書入》右横に「ひめ」

【謝辞】

貴重な所蔵品の調査と本論文の掲載をお許しくくださった常霊山本興寺(静岡県湖西市鷺津)様に深く御礼申し上げます。

(かとう のぞみ)

愛知県立大学大学院 国際文化研究科 博士後期課程)